



金山杉俳句会報 第三九二回

赤ん坊高い高いとさくらんぼ  
 古き町新しき町梅香ほる  
 春の水押し上げている鯉の口  
 言ふがまま児の手に引かれさくらかな  
 物差しの目盛り薄れし目借時  
 菜の花の鍬に散りくる夕明かり

セイ子  
 サタエ  
 敏子  
 恵美子  
 よし子  
 順子



カエルの楽園  
 百田尚樹/新潮社

安住の地を求めて旅に出たアマガエルのソクラテスとロベルトは、平和で豊かな国「ナパージュ」にたどり着く。そこではやさしいツチガエルたちが奇妙な戒律を守り穏やかに暮らしていた、ある事件が起こるまでは。平和とは何か。愚かなのは誰か。



世界の果てのこどもたち  
 中脇初枝/講談社

戦時中、高知県から親に連れられて満州にやってきた珠子。彼女はそこで朝鮮人のミジャと、恵まれない環境で育った茉莉と出会う。お互いが何者であるか知らない三人だが、あることをきっかけに友情で結ばれる。しかし、終戦が訪れ、運命は三人を引きはなす。

かねやま紅風会

荒屋 阿部 勝子  
 大堰にとり始めし夕桜  
 誕生日祝ふが如し初つばめ  
 荒屋 関 喜美子  
 花桃の品に農婦の安堵かな  
 出番とて膳を賑はすごみかな  
 菅 越 庄司けみ子  
 夕暮れの花見お茶屋のあたゝかき  
 出来あきを祈りながらの種浸し  
 七日町 青柳キエ子  
 観音のお札授かる花あかり  
 通りあめ並木桜へ容赦なく

七日町 柴田 栖静  
 人の世に儂さありぬ花は葉に  
 股のぞき天の橋立おぼろなる  
 羽 場 坂本徳太郎  
 一度差に重ね著を脱ぐ色合せ  
 新築の家飛び回る初燕  
 上台 阿部 一  
 トラクター春の大地を自覚めさせ  
 早朝へ余暇を集めて代掻けり  
 七日町 村松 奈風  
 古茶を淹れ噂ばなしや講仲間  
 新涼を調べにきざむ三味速音

新刊図書 6月

- 海は見えるか/真山仁
- カエルの楽園/百田尚樹
- 王とサーカス/米澤穂信
- 完訳 日本奥地紀行3, 4/イザベラ・バード
- キューブスイーツ/信太康代
- 花が咲くとき/乾ルカ
- 世界の果てのこどもたち/中脇初枝
- おにぎらずとおにぎらずロール/郷知詠子
- 田園回帰②人口減少に立ち向かう市町村/季刊地域編集部
- 田園回帰③田園回帰の過去・現在・未来/小田切徳美・筒井一伸

森の子ども図書 126 交流サロンポスト内 12:30~17:00



『文房具のやすみじかん』  
 (土橋正/文 小池壮太/絵 福音館書店)

新しく一年生になったみなさんは、えんぴつや消しゴム、ノートなどを買ってもらったことでしょうか。これらのことを文房具と言いますが、この文房具、もしかしたら皆さんの見ていないところではおしゃべりしているかもしれませんよ。この本では、文房具が仲良くおしゃべりしながら、こんなお話しをしています。えんぴつはどうして書けるか、消しゴムはどうして消せるか、色えんぴつ、ボールペン、修正液…子どもたちにおなじみの文房具たちの「書くこと」「消すこと」のしくみを話してくれています。